

都民向けフォーラム

# 糖尿病・禁煙・口腔がん

WEB開催

参加料無料

配信期間

令和5年3月1日(水)～31日(金)  
(2023年)

講演時間

各講演 約30分

講演

## 糖尿病予防フォーラム

演題: 歯周病と糖尿病との危険な関係  
ー歯周病と全身疾患との関わり。  
全身の健康は口の中からー



日本歯科大学生命歯学部 歯周病学講座 教授 沼部 幸博 先生

## 禁煙支援フォーラム

演題: 禁煙支援  
ー歯医者からのメッセージー



日本歯科大学生命歯学部 衛生学講座 教授 福田 雅臣 先生

## 口腔がんフォーラム

演題: 知っていますか?  
口の中の“がん”のこと  
～セルフチェックと検診で早期発見～



日本歯科大学生命歯学部 口腔外科学講座 主任教授 里見 貴史 先生

## お申込み・お問い合わせ先

本フォーラムは、パソコン、タブレット、スマートフォンでご視聴いただけます。  
当日の視聴には事前登録が必要となります。下記URLまたは  
二次元バーコードよりアクセスし、申込フォームに必要事項を  
ご入力の上、お申し込みください。

<https://j-entry.gostream.jp/entry/seminars/view/BOYxmp5FWg>



公益社団法人 東京都歯科医師会・地域保健課  
電話: 03-3262-1148 (受付時間: 平日10～16時(土日祝は休み))

主催 / 公益社団法人 東京都歯科医師会  
<https://www.tokyo-da.org/>



# 歯周病と糖尿病との危険な関係

— 歯周病と全身疾患との関わり。全身の健康は口の中から —

## 講演要旨



日本歯科大学生命歯学部 歯周病学講座 教授 **沼部 幸博**

糖尿病は生活習慣病の代表格です。本邦では境界型糖尿病（糖尿病予備軍）の方が1,320万人、糖尿病と強く疑われる方が890万人、合わせて2,210万人の患者さんがいるとされています。

一方、私たちが大切な歯を失う原因のほとんどは歯周病によるもので、現在の日本では、成人の約7割が歯周病に罹患していることがわかっています。

この2つの病気はともに生活習慣病として知られていますが、糖尿病の患者さんでは歯周病の罹患率が健康な方よりも高いことから、歯周病は糖尿病の6番目の合併症となっています。

反対に糖尿病の患者さんが、お口の中の歯周病を放置したままですと、インスリ

ン抵抗性が高まり血糖値のコントロールが困難になり糖尿病が悪化すること、しかし歯周病の治療をしっかり行くと血糖値が改善することから、この2つの病気には双方向の関係があることが確認されています。

これらのことから、現在では糖尿病の患者さんに対する「歯周病予防」と「歯周病治療」の重要性が強調されるようになり、それらが健康寿命延伸に深く関係する重要なキーワードなのです。

本講演では、歯周病の病気の正体と歯周病が関係する全身の病気の数々を紹介し、その中でも糖尿病と歯周病との危険な関係に焦点を当てて、その関係を上手に断ち切る方法について、ご一緒に考えていきたいと思ひます。

## 略歴

- 1983年3月 日本歯科大学歯学部卒業（72回）
- 1987年3月 日本歯科大学大学院修了（歯学博士）
- 1987年4月 日本歯科大学歯学部歯周病学教室 助手
- 1989年4月 日本歯科大学歯学部歯周病学教室 講師
- 1989年9月 カリフォルニア大学サンフランシスコ校（UCSF）歯学部 客員講師（～1991年）
- 1993年4月 日本歯科大学歯学部歯周病学教室 助教授
- 2005年6月～現在 日本歯科大学生命歯学部歯周病学講座 教授
- 2018年4月～現在 日本歯科大学生命歯学部 生命歯学部長

## 専門医・指導医・学会活動

- 日本歯周病学会 常任理事、専門医（指導医）
- 日本歯科保存学会 理事、専門医（指導医）
- 日本レーザー歯学会 専務理事、専門医（指導医）
- 日本歯科医学教育学会 常務理事
- 日本歯科薬物療法学会 理事
- 日本歯科大学歯学会 評議員
- 日本歯科医学会 評議員
- 国際歯科研究学会日本部会（JADR）評議員
- 国際歯科研究学会（IADR）
- 日本臨床歯周病学会
- 日本老年歯科医学会
- 東京都歯科医師会
- 日本歯科医師会

# 禁煙支援 — 歯医者からのメッセージ —

## 講演要旨



日本歯科大学生命歯学部 衛生学講座 教授 **福田 雅臣**

喫煙が、がん・脳卒中・心疾患など様々な病気の大きなリスク因子であることは周知の事実です。近年の日本人の喫煙率は男性 27.1%、女性 7.6%で、10年前に比べ男性が 11.1%、女性では 3.3%減少し（平成元年国民健康・栄養調査結果より）、男女ともに禁煙志向が進んでいることがわかります。また、健康増進法の改正により、受動喫煙の防止を図るための措置が定められ、学校・病院・児童福祉施設等での敷地内禁煙、事業所・飲食店等での受動喫煙防止対策が取られるようになりました。

健康日本 21（第二次）では、“主要な生活習慣病の発症予防と重症化予防の徹底（NCDの予防）”に関するターゲットとする疾患として、がん、循環器疾患、糖尿病、COPDが示されており、これら疾患の共通の予防対策として禁煙があげられています。“歯・口の健康”では、健全な口腔機能を生涯にわたり維持することが謳われ、これを

実現するための歯周病予防の重要性が位置付けられています。喫煙は歯周病の進行・重症化に大きく関わっているリスク因子ですので、歯周病発症予防・重症化予防対策には禁煙が必須であるといえます。すなわち、歯周病発症予防・重症化予防は、NCD予防のための行動変容と同じカテゴリーで禁煙対策をすすめていくことができます。さらに、歯科治療の特徴として、口腔内の診察で喫煙の有無が確認できること、診療が数回または定期的になるなど、歯科医療機関は継続した禁煙支援を実践する最適の場であるといえます。

今回のフォーラムでは、歯・口の健康、特に歯周病と喫煙との関連性、歯科診療の特性と禁煙支援のかかわりについてお話していきます。そして、歯科医師による禁煙支援に関して、さらなるご理解いただき、かかりつけ歯科医を持つ機会になっていただければ幸いです。

## 略歴

1982年	日本歯科大学歯学部卒業
1986年	日本歯科大学大学院修了 日本歯科大学歯学部 助手
1991年～1993年	フィンランド トゥルク大学 客員研究員
2014年	日本歯科大学生命歯学部 教授

## 専門医・指導医・学会活動

- 日本公衆衛生学会 認定専門医
- 日本口腔衛生学会 専門医
- 公益財団法人 8020 推進財団 理事
- 社会歯科学会 常任理事

# 知っていますか？ 口の中の“がん”のこと ～セルフチェックと検診で早期発見～

## 講演要旨



日本歯科大学生命歯学部 口腔外科学講座 主任教授 **里見 貴史**

「口腔がん」は、人口の高齢化に伴い罹患患者数が年々増加する傾向にあり、咽頭がんを合わせると年間2万人以上が罹患しています。口腔がんは、がん全体の2～3%、全頭頸部がんの約40%ですが、リンパ路が豊富な刺激が加わる部位に好発するため、容易に転移しやすく、生命に関わる重大な疾患であることに違いはありません。口腔がんを咽頭がんを合わせると死亡率は、35.5%（全25部位中12位、国立がん研究センター2016年）と報告されています。ただし、口腔がんは、肺がんや胃がんなどとは異なり直接、見て触れることができるため、早期発見が容易な“がん”でもあり、初期のうちに治療ができれば後遺症もほと

んどなく、5年生存率は90～95%と予後良好です。しかし、進行してからでは最悪（死）の結果は免れたとしても「食べる・話す・表情を作る」といった機能が大きく損なわれ、生活の質の著しい低下をきたします。すなわち、社会生活に大きなハンディキャップを負うこととなります。それゆえ、口腔がんは他のがん同様にやそれ以上に、早期発見・早期治療が極めて重要であるといえます。

本講演では、口の中にできるがんの特徴についてわかりやすく説明し、さらに、口腔がんのセルフチェックと予防、口腔がん検診についても解説します。

## 略歴

- 1990年 日本歯科大学歯学部卒業
  - 1994年 東京医科大学大学院医学研究科博士課程修了 医学博士
  - 1995年 東京医科大学口腔外科学講座 助手
  - 1995年 日本医科大学多摩永山病院救命救急センター 国内留学
  - 2000年 Canniesburn Hospital (Scotland)  
Maxillofacial Unit, Morryston Hospital (Wales)  
Maxillofacial Unit に国外留学
  - 2003年 東京医科大学口腔外科学講座 講師
  - 2012年 東京医科大学口腔外科学分野 臨床准教授
  - 2018年 東京医科大学口腔外科学分野 兼任教授
  - 2018年 日本歯科大学生命歯学部口腔外科学講座 主任教授
- 現在に至る

## 専門医・指導医・学会活動

- 日本口腔外科学会  
理事、代議員、口腔外科専門医・指導医
- 日本口腔科学会 理事、評議員、指導医
- 日本がん治療認定機構  
がん治療認定医（歯科口腔外科）
- 日本頭頸部癌学会 代議員
- 日本口腔腫瘍学会  
評議員、暫定口腔がん指導医
- 日本歯科大学歯学会 理事、評議員